スペースに余裕の秦荘庁舎

Q 支所とともに公民館としても利用し、ハーティーセンター秦荘と一体的活用を

A 愛の郷の複合施設化を進めていく

村西　作雄 議員

録画配信はこちら

秦荘庁舎を公民館とし、ハーティーとの一体的活用を

問 秦荘庁舎は9月17日から秦荘支所となり、支所職員数名がいるだけで大きな建物がひっそりし、全く勢いや賑わいがなくなった。1月には改修工事が完了し、1階は支所スペースのほか町民ホールや待合ホール、応接・会議室、職員食堂、さらには土地改良区など3団体の事務所と、別棟は防災倉庫と余裕たっぷりだ。

一方愛の郷は、建物を改修するにも駐車場は狭小で、複合施設として多くの町民が集うには使い勝手が悪い。この施設の改修設計に1千万円、工事費に3億4千万円が見込まれ、秦荘庁舎を活用すればその費用削減につながる。

東部地域の賑わいを創出するためにも、駐車場や部屋スペースに余裕がある秦荘庁舎を支所機能とともに公民館とし、ハーティーセンターと一体的活用ができないか。

答（町長）

愛の郷の複合施設化は町社協と協議を進めており、実務的な調整は今後も進める。駐車場はレイアウトが大変駐車しやすいと個人的に感ずることはまれだが、可能な限り利用しやすくし台数増につなげるレイアウトにしていきたい。

問 なんという言い回しだ。町長はいつも私に対し回りくどい答弁をされる。「駐車しにくい」との答弁を「駐車しにくい」との答弁意喚起を。

※森野議長から、町長に対し非常にこねくり回した言い方はわかりにくい。わかりやすい答弁をとの注意があった。

答（教育長）

公民館が果たすべき役割は、ここ近年変化しつつある。学びの成果を地域課題解決や主体形成づくりにどのようになげていくかといったことも、公民館機能として大変重要な役割だ。愛の郷や小中学校の空き教室も含め、多様にそのの機能を果たす施設として地域の課題に即し、幅広く考えていく必要がある。

職員の働き方改革に向け、町民の協力のもと開庁時間の短縮を

問 近年県下自治体では職員の働き方改革の推進と、短縮によりDX推進の検討や事務打ち合わせ時間を確保し、職員の心のゆとりも確保するため、開庁時間の短縮が大津市や滋賀県ですでに実施済で、今年10月からは彦根市、来年1月からは長浜市で進められる。開庁時間の短縮は、職員の勤務時間は週38時間45分と決められており、その時間を削ることなく、町民の来訪や電話受付を9時から16時45分までとするもの。

町長には、職員の働き方改革と、業務改善の時間確保による町民サービスの向上に向けた取り組みとして、県下6町の先陣を切って来年度に実施されるよう求める。

答（町長）

庁内の準備、町民・役場利用者への周知を踏まえ、実施に向けた取り組みを進めたい。

町の東西軸（仮称）湖東みらい線の建設促進について

問 11月8日湖東みらい線建設期成同盟会の設立総会が開催された。この同盟会は、本町と豊郷町加えて彦根市の3市町で構成されており、今後の建設促進に大きな期待を寄せる。この計画は、湖東三山SIC入口の信号から直接蚊野東部500m区間を新設により町道名神国八線に擦り付け、既存の町道名神国八線と県道目加田湖東線西部の豊郷町道吉田秦荘線を利用したうえ、豊郷町領域1500m愛荘町領域1200mを新設し、国道8号につなぐという大きな計画。具体計画には、県の道路計画アクションプログラムに組み入れる必要があるが見込みは。

答（建設下水道課長）

4年後のプログラム更新時に掲載されるよう進める。

（仮称）湖東みらい線計画図

町消防団、自治会自警団今後の運営

Q 町消防団・自治会自警団のなり手不足

A 町消防団と協議して真摯に対応

久保田　正利 議員

録画配信はこちら

教育行政等に関する成果や課題は

問 教育長自身が感じている教育行政等に関する成果や課題、これから取り組むべき学力向上対策、保育や福祉施策との連携は何であるのか。

答（教育長）

就任当初から、読書に読み聞かせ、自尊感情育成等において幼児期からの一環とした取り組みを重視し、その推進を図ってきた。そうした一貫教育の道筋や理念を、未来を拓く愛荘16年教育に整理し各校園のコミュニティスクールや社会教育委員、ボランティア等関係者の力添えをいただきながらさまざまな取り組みを進めており、徐々に軌道に乗りつつあると考えている。

問 未来を拓く愛荘16年教育に対する評価は。

答（町長）

未来を拓く愛荘16年教育は、子ども・子育て施策の総合的な展開がみられるなか、町教育行政の重要な柱となっている。そうした意味では、一貫した教育施策として16年教育の考え方は的を射たものであり、いくつかの成果も見え始めている。

問 消防団、自警団等の今後の運営にあたり、消防団、各自治会の自警団および自主防災組織の役割が重複している点は。

答（企画政策監）

重複している点は、活動自体は地域によって多少異なるが、自警団と自主防災組織については、自主防災組織の中に消防団が構成委員として入られている方が多く、自治会の防災訓練等で活動を共にされ、自警団については、小型ポンプの積載車を用いて、集落内を啓発されていることも重複している。消防団員の増加に向けた取り込みは、町職員に向けて積極的に声をかけ加入を勧めると共に、団員の増加に努めていきたい。

問 消防団、自警団のなり手不足の原因は。

答（町長）

町消防団、各自治会の自警団の皆様方におかれては、それぞれの仕事もあるなか、火災や災害に注意や備え等日々訓練いただいていることに感謝申し上げる。政策監からもなり手不足について触れているが、自治会では工夫され自主的に消防活動をいただいており、自警団を中心とする消防活動の要否は、大変難しいと考えている。消防団においては、団員定数と実数との乖離が生じていることも確かであり、自警団を基礎とする町消防団の組織編成について、継続的な消防団のあり方も消防力の維持の点から早々な検討が必要だ。議員から検討委員会を設置して消防団と各自治会の自警団の組織体制の再構築を図ってはとお問いをいただいた。これまでの消防と地域とのつながりを鑑み、これからの体制のあり方に関して消防団幹部の意見徴収より始めたい。

町消防団の夜警活動